サケの捕獲風景

いつまでもきれいな川で

木戸5121
大木義夫さん

「栗山川も今から40年位前は澄んできれいだったので、水を飲みました。20年位前より家庭や工場から有害物質が流れ込み、川の汚れがひどくなり心配です。」と話す大木さん。

サケの捕獲を始めて既に18年、今でも続けられ、栗山川と深い関わりをもっています。

「サケは水温と川の汚れに影響を受けます。捕獲は10月から2月末までで、10月頃河口から木戸橋附近の浅瀬に群らがって遡上するサケの姿は勇壮です。

また、今年初めて、河川改修してできた浅瀬にこいが産卵したので、これからも多くこいの住める場所を作ってほしい。また、栗山川沿線の市町が一緒にサケの登る川のPRと、環境整備をしてほしい」と熱っぽく語っておられました。

川の近くに住み、毎日眺め親しんだ栗山川が、いつまでもきれいな川であってほしいと願っていました。

昭和51年から稚魚の放流を開始。55年2月5日初捕獲。61年12月26日念願の1500匹を捕獲。これを記念して建てられました。

サケの記念碑（木戸地先）

栗山川を花街道にしよう

白浜小6年 実川美邦

「美邦！花植えるぞ！花！」

大きな声を弾ませておっちゃんがやってきた。

「うん！今いくよ。」

ぼくは、おっちゃんの軽トラックに乗って、栗山川に向かう。『栗山川を花街道にしようの会』を作って三年目。今年も春になり、いよいよその日が来た。ぼくの住む光町には、サケがそ上することでも有名な栗山川がある。栗山川の水は冷たくて夏は気持ちいいし、ピチャピチャと音を立てて魚がはねることもある。ぼくの友達は、実際にサケが上っていくのを見たことがあるそうだ。その栗山川の土手に花をたくさん植えて花街道にしようということを考えたのは、椎名さんというおじさんだ。きっと、栗山川を守る大切な土手を花でいっぱいにし、たくさんの人たちに見てもらおうと考えたんだと思う。

ぼくは、本当のことを言うと、最初のころは、あまり行きたくなかった。なぜなら、花を植えるのがめんどくさいし、手がよごれるからだ。でもやってみると、意外に楽しくなってきた。また、この活動の中で新しい友達もできた。「自分で何かをやる」という目標ができて、楽しくなってきた。

ぼくたちがやっている花植えの順番は、最初に土手のゴミ拾いをする。おじさんたちは草刈り機で草を刈ってくれる。当日だけでは刈り終わらないので、おじさんたちが前日までに刈っておいてくれる。それから、いよいよ花を植え始める。なえは、穴の中に入れればかんたんだが、種を均等にまくのはけっこうむずかしい。そこでおっちゃんが『秘密兵器』を考え出した。その『秘密兵器』とは、ジュースの空き缶の底にきりで穴をあけ、その缶の中に種を入れ、まくものだ。これを使うと細かい種を楽にまくことができる。おっちゃんは、すぐに何でも発明し、作ってしまうからたいしたものだと思う。そして最後に、水をまく。栗山川からバケツで水をくんできて、その水をじょうろに入れて水をまく。水をくむ時にはかなり力が必要だ。バケツを二つ持って行っても、くむ時には両手でくまないとバケツが流されてしまう。ひと仕事終わると楽しみにしている昼食だ。

昼食はいつもおもちとバーベキュー。花を植えた後、ジュースを飲みながらバーベキューを食べると、いつもの二倍も三倍もおいしく感じる。

発表する実川君

今は秋。たくさんのコスモスがきれいにさいている。その中には、ぼくが持っていったコスモスも入っている。栗山川の土手にきれいにさいている花を見ると、「自分でもやればできるんだなあ。」と思う。つり人たちは、この栗山川に来て、どう思うだろうか。もし、ぼくがつり人だったら、「この川は、整備されていて、とてもきれいだなあ。」と思うだろう。ぼくが大人になっても、おっちゃんのように栗山川を守って花を植えていきたいと思う。そして、これからも、この『栗山川を花街道にしようの会』を大事にしていき、ますますぼくの町の栗山川をきれいにしていこうと思う。